

1. 阪神・淡路大震災

平成7年（1995年）1月17日（火）5時46分に、淡路島の北部で起きた地震です。神戸市、芦屋市、西宮市、北淡町（当時）を含む広い地域で、地震の大きさを表す「震度」では最も強い揺れである「震度7」となりました。たくさんの建物が倒れ、人々がその下敷きになったりして、亡くなったり行方が分からなくなった人6,437人と、最近では最も大きな被害となりました。火災でまちが燃え広がり、電気、ガス、水道などが止まり、道路、鉄道、港なども被害を受けました。この地震をきっかけに、建物やまちを地震に強くすることが大事であると言われるようになりました。また、多くの人々が、被害にあった人たちを助ける力になろうとして、「災害ボランティア」と呼ばれる組織に参加するきっかけとなりました。

写真では、阪神・淡路大震災で被害を受けた兵庫県神戸市での、建物が壊れた様子、まちが焼けた様子がわかります。